

NPO U-30 インタビュー

高知県の30歳以下のNPOスタッフへのインタビューです。



- お名前を教えてください。
楠瀬朋葉です。
- 何年生まれですか？
1988年です。
- 所属団体は？
すてきなまち・赤岡プロジェクトで活動しています。
- どのような活動をしていますか？
赤れんが商家をまちづくりの拠点として、赤岡のまちや周辺の地域や人をつなぐ活動をしています。
- 団体での役割は？
ボランティアスタッフとして、いろいろなイベントの企画などを行っています。
- この活動をしていて楽しいことは何ですか？
いろいろな人に会えることや、まちの人たちに応援してもらいながら活動できることです。

- 活動していて大変なことは何ですか？
自分の仕事が忙しいときもあるので、時間がとりにくい時があることです。
- 特技は何ですか？
おいしくご飯を食べることです。
- これからやってみたいことを3つ教えてください。
(団体として)
・職人さんに教えてもらいながらのワークショップ
・どんどん赤れんが商家を直したい
(個人として)
・いろんなところに旅に出たい
- 好きな言葉は何ですか？
「なんちゃじゃない」です。



すてきなまち・赤岡プロジェクト

今後の予定・ワークショップなどはこちらをご覧ください
<https://www.akaokaakarenga.org/>



てをつなご

発行・編集：高知県ボランティア・NPOセンター

〒890-8557 高知市朝倉1375-1 高知県立ふくし交流プラザ1F 高知県社会福祉協議会内
Tel 088-850-9100 Fax 088-844-9443 E-mail:kvnco@pipikooch.or.jp

てをつなご

2018.Winter vol.117 年4回発行

CONTENTS

Awesome NPO
香南市の注目NPO
すてきなまち・赤岡プロジェクト

高知工業高等専門学校
環境都市デザイン工学科
窪田 真衣さん/岡村 春華さん

こうちNPOフォーラム2017
参加団体の声/開催報告

NPO U-30
30歳以下のNPOスタッフインタビュー
楠瀬 朋葉さん



こうちNPOフォーラム2017

2017年11月25日に高知県立ふくし交流プラザにて
こうちNPOフォーラム2017が開催されました。

Interview

参加いただいた2つの大学生のグループにお話を伺いました。

国際交流団体 すきつぱ



●フォーラムに毎年来てくださっていますが？
「私たちは、学内外にフェアトレードを広めたいと思い活動しています。その一環として参加しています。」

●フェアトレードって何ですか？
「貿易の仕組みのことを指します。発展途上国との生産者との取引の場合、不当な価格をつけて、貿易を行うことがあります。フェアトレードはそうではなく適正な価格で公平な貿易を行うことで、発展途上国の方の労働環境の改善や生活の質を向上します。」

●みなさんに伝えたいことはどんなことですか？
「コーヒー1杯からできる国際協力がフェアトレードコーヒーです。スーパーに置いてあることもあり、身近にあるので探してみたいです。」
「フェアトレード商品の認知度が低く知らない方が多いので、身近なものを探してみたいです。国際協力を考えるきっかけになったらいいと思います。」



高知工科大学ジャグリング部 KUTJ



●今回、NPOフォーラムに参加した理由は？
「自分たちの活動を多くの方に知ってもらい、今後の依頼につなげたいと思い参加しました。」

●どんな活動をしていますか？
「週末に、ボランティアで地域のイベント（お祭りや敬老会等）で技を披露したり、ジャグリングをたくさんの人に知ってもらうために体験会を行ったりしています。主な活動範囲は、香美市（土佐山田町）、香南市（野市町）、南国市です。」

●今後はどんな活動をしていきたいですか？
「これからも、地域と連携しながら、地域に密着した活動を続けていきたいです。」



こうちNPOフォーラム2017開催報告



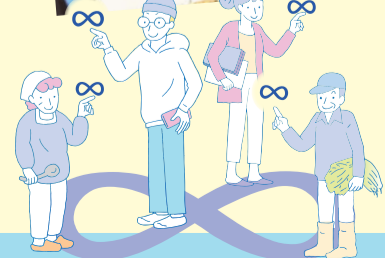
いろいろな世代の方たちと
新たなつながりができました。



11/25（土）に、高知県立ふくし交流プラザにて「若者×地域=∞～新しい生き方発見～」をテーマに開催され、学生から実際にNPO活動を行っている人まで、たくさんの方の参加がありました。午前中の～成功事例に学ぶトークセッション～では、3つのNPO法人が登壇し、団体の活動紹介や、「団体の自慢」、「今までに一番やりがいを感じたこと」、「地域と関わるとき大切なこと」などを話していただきました。

昼食交流会では、NPO屋台村で地域のおいしいものをいただきながら、参加者同士で交流しました。また、午後は、ワールドカフェ形式で参加者同士、『若者×地域』をテーマに話し合い、様々な意見が交わされました。

参加者からは、「若者の思いを知る事ができた」、「様々な団体と情報交換できた」という声が寄せられました。



香南市には以前よりまちづくりの活動が活発だった地域があります。それが今回取材した香南市赤岡町です。赤岡には、絵金蔵や弁天座など文化的な施設もあり、県内外から観光客もやってきます。そんな赤岡で、1軒の古民家をきっかけにまた新たな動きが始まっています。赤岡の初代村長さんのお家「赤れんが商家」を活用するための取り組みです。



窪田 真衣さん

岡村 春華さん

高知工業高等専門学校環境都市デザイン工学科 窪田 真衣さん [20歳] / 岡村 春華さん [19歳]

歴史をつなぐ活動

- どういった活動をしていますか？
歴史的建造物である赤れんが商家を残していきたいということで、活動しています。ただ保存だけでなく、何かに活用し、歴史をつないでいきたいと思っています。
- お2人はどのようなきっかけで活動に参加しましたか？
卒業研究の一環です。最初は赤れんが商家の掃除などから始めました。そのうちに赤岡で行われるいろいろなイベントにも参加するようになりました。絵金祭りでの屏風絵の解説ボランティアもしました。絵金祭りはボランティアがたくさんいた方がいいので、私たち以外にも学内でボランティアの募集をします。
- これからの活動は？
私たちが今年で卒業して県外で就職するので、なかなか活動に参加できなくなりますが、先輩たちも長期休みだったり絵金祭りには戻ってきてたりします。赤岡の人たちがあたたかいこともあり、これからもつながっていきたくと思っています。

“まち歩き”で赤岡町活性化!!

- 活動してよかったことはなんですか？
古い家を改修したりすることは、自分たちの勉強にもなっていて、普段だったら見ることができない築150年くらいの家を見たり、耐震についても調べたりしています。図面を書いたりすることでも勉強になっています。
- 赤れんが商家を見たい方が気軽に行って中を拝見できますか？
現在は月2回コーヒーが飲める場所として開いているのですが、それ以外は閉まっている状況です。何かのイベントの際には見ていただくことができます。予定はホームページやフェイスブックで発信してます。
- これからの赤れんが商家の活用については？
赤れんが商家が拠点となって、赤岡が活性化すればいいなと思っています。普通の観光客は絵金蔵、弁天座に寄ったら帰るコースになってしまっているけど、いいまちなのでまち歩きなどもしてもらいたいと思います。



「すてきなまち・赤岡プロジェクト」は地域と関係機関が集まりできたプロジェクトです。2人にとっては学校の授業から始まった活動ですが、自分たちの専門性も活かして活動していて、まちの方たちや同じ学校から参加している先輩後輩とのつながりがあり、楽しく活動できているとのこと。専門の学生だからできることとまちの活動がつながり、これからも赤岡のまちが活気づくのではないのでしょうか。

● すてきなまち・赤岡プロジェクト
事務局：南国市物部乙200-1 高知高専内 北山研究室
Mail : akaokaakarenga@gmail.com



かまどづくり体験ワークショップ



立体パズルみたい...

大工仕事はお手のもの!

元々あったかまどを一度解体して修復。完成後予定していた「かまどを使ってご飯を炊くワークショップ」は残念ながら台風のために中止。

絵金祭りでのひとこま



わあ、ホンモノ初めて見た!



絵金屏風絵の解説も。

おおいこれうまいやんか!



赤れんが商家の裏庭でBBQ!

たくさんの人の参加があり、地域での交流となった。すてきなまち・赤岡プロジェクトという団体名もこの時に小学生から出た言葉から。



「こんなまちにしていきたい」を参加者それぞれ書き、みんなで作った。

赤岡の魅力再発見!!



復活! 赤岡探偵団

20年ほど前にあった「赤岡探偵団」が復活。新たな視点も入れ、中学生たちと一緒に赤岡の魅力を探した。その後、それぞれ発表も。

町娘です♡



長い間使っている家なので、あちこち補修する必要がある。

古民家として残すべき部分と、安全に使うことができるようにするにはいけない部分を見極めながらの修繕。

冬の夏祭り



大正・昭和期の商家の暮らしを朗読劇で表現!

今年の赤れんが商家は、「リーディングシアター「あかおかさんぽ。」。暮らしの痕跡を集めたものを、朗読劇の中でちりばめていて、この家であった生活を垣間見ることができた。

岡村さんも横町商店街の赤れんが商家ブースで受付を。

